

4月から5路線(はるかぜ3・7・10号、ブンブン号、京成バス)の廃止強行! 区の責任で公共交通、区民の足を守れ

／ 廃止された5路線 ／

	路線名	運行事業者	一日当たりの便数		年間利用者数
			平日	土休日	令和4年度実績
1	はるかぜ3号 (西新井・舎人線)	国際興業	24	24	86371
2	はるかぜ7号 (西新井・六木線)	東武バス	12	12	39857
3	はるかぜ10号 (西新井・高野線)	日立自動車	4 (24)	0 (20)	(33332)
4	ブンブン号	東武バス	47	37	81507
5	北千01・02系統 (北千住駅・南千住駅間)	京成バス	12	0	48545

※はるかぜ10号の()内は減便前の数字

23区のコミュニティバスを比較すると

23区で21区がコミュニティバスを運行していますが、圧倒的多数の16区が運行開始と同時に「公共交通」として区が運行補助(赤字補)をしています。13の区はシルバーパスは使えませんが誰でも100円で乗れます。

足立区のように2000年に開業以来20年間もの間、事業者まかせで独立採算での運行に頼ってきた区はほとんどありません。

例えば日立交通は、他区でも運行しています。長年赤字補填をしてきた区と、支援がなかった足立区。どちらを減便・廃止にするかなれば、足立区になってしまうのではないのでしょうか。

はるかぜ3号やブンブン号存続の運動がきっかけ

はるかぜ3号の廃止案が半年前に浮上し、地域8町会・自治会が一丸となって存続運動をおこなったことや、検証運行のブンブン号の存続運動の中で、区は各バス事業者と懇談を行った結果、深刻さを認識、方針転換(運行補助・赤字補填をする)しました。

交通は暮らしをささえ、交流を促し、豊かな地域社会を創造する基本的な人権です。その交通の確保が、脅かされています。4月からバス路線5便の廃止が強行。減便も相次ぎ1日1〜2便などという路線もあります。運転手不足でタクシーを呼んでも来ない、流しのタクシーも減っている状況です。他区は、コミュニティバススタートと同時に赤字補填を行いバス会社と協働関係を築いてきました。それに対し足立区は、自民党議員の発言で、「はるかぜには区の補助を一円も行わず自主運行」を20年間つづけてきました。その責任は重大です。

日本共産党は繰り返し区の支援を求め、ついに区が方針変更。7路線については区が赤字補填を行うことになりましたが、4月から4路線と一般の京成バスが廃止されました。

代替策なしの廃止はひどい!

はるかぜ10号に至っては、年末に減便になり平日の朝夕しか運行しなくなり、「病院に行っても帰れない」などの声が上がっていた矢先に突然の廃止発表。しかも、説明会すら行われませんでした。もともと「はるかぜ」や「ブンブン号」は、交通空白・不便だから運行された路線です。代替策なしに廃止することは、地域の方々を見捨てることになります。

他の区では廃止と同時に代替策を検討しています。足立区のため込んだ積立金は全国トップクラスの1800億円超。お金の使い方が問われます。

一緒に考え、
声を上げて
いきましょう!



(基準額)

制度開始以来初の値下げ実現!

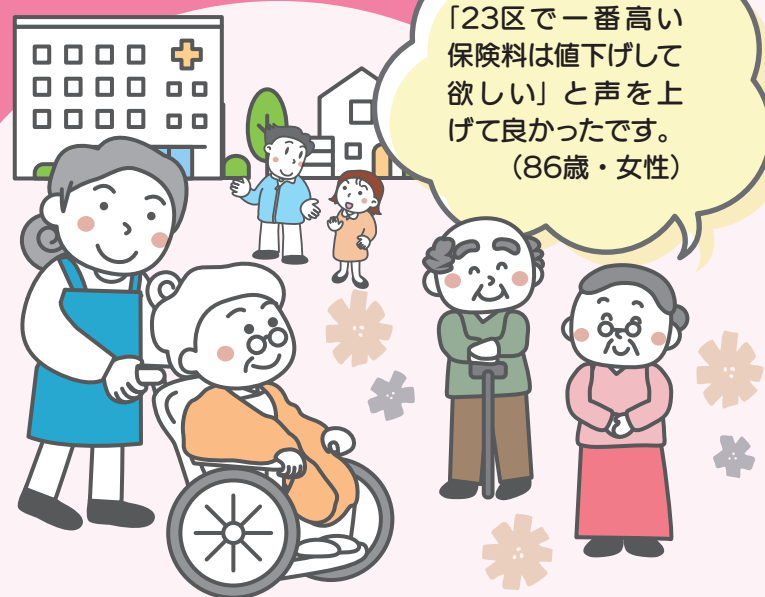
3年に1度の介護保険料の改定で、中間報告では、現在の6760円(基準額)を最大で7560円の大幅値上げ案が示されました。区民からパブリックコメントは674件も提出され、9割が「介護保険料を値上げしない」というものでした。さらに区議会には「介護保険料引き上げ中止を求める」陳情が出され、3カ月で署名は3296筆にのぼりました。この区民の大きな世論と日本共産党の議会議論戦で基準額10円(本人非課税、課税世帯)値下げが実現しました。非課税世帯は100円〜110円値下げで、10万5000人以上の方が値下げになります。しかし、本人課税者は値上げに。年金を受給しながら働く方にとって厳しい値上げとなります。この点を指摘し、国に対して国庫負担率を上げることを強く求めました。

「介護保険料を引き上げないでください」の
陳情に対する各党の態度

会派	共産党	自民党	公明党	立憲民主党	無会派
態度	○	△	△	△	△

(賛成○ 継続△ 反対×)

介護保険



「23区で一番高い
保険料は値下げして
欲しい」と声を上
げて良かったです。
(86歳・女性)

いのちを守る震災対策を!

日本共産党足立区議団



4月3〜5日。区議団全員で能登半島地震の被災地(羽咋市・輪島市)のボランティア支援に行き、支援物資をお届けするとともに、支援活動を行いました。
「支援物資はいくらでも大歓迎の実態」「復興どころか復旧もままならない実態」を目の当たりにし、政治の責任を痛感。同時に足立区に生かすべき教訓を体感してきました。支援を続けながら、今後に生かしてまいります。



1月23日、区長宛てに申し入れを行いました。

日本共産党は住民の苦難軽減が立党の精神です。その立場から日本共産党区議団は1月23日区長宛てに「2024年能登半島地震に関する申し入れ」を行いました。

「いのち ないがしろ」

の防災対策

1月1日に発生した能登半島地震では、避難した方に物資が届かなかったことが教訓です。しかし、足立区は備蓄品を増やすものの備蓄品は区外の倉庫に預け、備蓄の管理だけでなく、災害時の運搬を一民間事業者に任せる方針を進めています。しかも現在区内6カ所の備蓄倉庫を将来的に3カ所に集約し興本、千住などを廃止するといっています。在宅避難者が備蓄品を徒歩でも直接受取りに行ける備蓄倉庫の充実こそ必要です。

また、人口69万人の足立区内の避難所受け入れ可能人数は153,000人で、多数の在宅避難者が生じます。他の自治体では家庭内備蓄の重要性を啓発し、様々な支援を行っています。日本共産党は家庭内備蓄への支援を行うべきと求めましたが、「お願いだけで支援はしない。」姿勢です。更に医療的ケア児を始めとする災害時要支援者の個別避難計画は、水害時のみで「震災はいつくるかわからないので作る考えはない。」という冷たい態度です。

「いのち ないがしろ」の防災対策ではないのでしょうか。

みなさんのご意見をお寄せ下さい

区議団 Tel.03-3880-5770
Fax.03-3880-5682

共産党足立区議団

メールは
こちら



日本共産党
足立区議団ニュース

発行会派
日本共産党足立区議団
足立区中央本町1-17-1
足立区役所内
発行責任者 ぬかが和子
編集責任者 小林ともよ

2024年 第1回定例区議会報告 No.201

基金1805億円

「さらに増える」ことを区が認めた

ため込んだ積立金の1.5%。0.08%の増額予算で
これだけのことが実現できます！

事業名・修正内容	金額（万円）	人数
I 物価高騰からくらし・営業を守る―物価高騰によるくらし・営業の困難は改善されていないのに極めて冷たい区の姿勢を改めさせる		
介護・福祉・浴場事業者支援 保育（347事業者）・介護（1001事業者）・障害福祉施設（396事業者）・浴場（24事業者）への光熱水費燃料代支援を昨年同様に行う。	20328.9	1768
一般事業者支援 杉並区同様に、全事業者を対象に事業規模に応じて6万～15万円の物価高騰支援（電気・ガスなど光熱費の補助）を実施する。	49210	23376
臨時給付金の拡充 国の給付金を受けられない「年間所得200万円以下の世帯」を少しでも支援するために1万円を給付する。	39000	39000
国保料軽減 現在就学前までしか実施していない「均等割り半減（6万→3万）」を18歳に達するまで段階的に拡充する。2024年度は小学生までを対象とする	13920	4632
II 子ども・子育てと若者を支援する―一区の事業は対象が限られ不十分。子育て世代すべてに届く支援を行う		
紙おむつ等の宅配支援 紙おむつ等の宅配支援により見守り・経済的支援を行う。現在実施している訪問家事支援事業とどちらかを選択できるようにする。	7020	3720
奨学金の拡充 対象が極めて少ない区の奨学金（育英資金）の拡充を行う （給付型）①評定3・5以上の学生を対象に、給付型奨学金を支給する。大学生月額12000円。所得制限360万円。対象数500人。これにより、全額給付からもれた要件を満たす方も救済する （返済支援）②返済支援（上限100万円）を、現在働き返済している若者に適用する	7200 8000	500 80
III 安心・安全の足立区へ―各家庭に届く防災支援。高齢・障害支援の拡充		
防災 備蓄支援 能登地震の教訓から在宅の備蓄品を充実する。江東区・世田谷区のように防災情報を兼ね備えたギフトカタログを配布することによって、各家庭に必要な備蓄支援を行う。新年度は木密・倒壊危険度の高い地域（環七以南）の全世帯を対象にする。	100284.3	182792
生きがい奨励金 物価高騰支援にもなる70歳以上の高齢者への生きがい奨励金を復活する。	45966	136555
福祉タクシー・障がい者支援 渋谷・中央・練馬・杉並・港区同様に、精神障害者1級手帳保持者に対し、他の障がい者同様に42000円のタクシー券を支給する。	2347.8	559
交通不便対策（高齢者へのタクシー券） 移動手段を持たない75歳以上の高齢者世帯の世帯主（非課税世帯）や、運転免許証を自主返納した高齢者へ、買い物や通院など日常生活の移動支援のため、タクシー券を発行する。木更津市同様に月3枚（500円）×12か月＝36枚支給（18000円分）する	11586.2	57931
増額項目合計	304863.2	450913
IV 施策の優先度を検証し、不要不急の事業の先送り等を行う		
◎学力テストの中止▲5499万7千円 ◎不急の道路事業等の見直し▲5340万円◎江北地域、千住一丁目再開発地域の無電柱化▲1億9300万円 ◎子ども犠牲の「東洲江小」改築のくりのべ▲4810万円 ◎議員報酬の削減・費用弁償の廃止①費用弁償は交通費を上回っており、税金の二重払いになるため、廃止する▲721.8万円、②議員報酬を10%削減する▲5178万円		

予算修正案を提案

お金の使い方を切り替える提案

第1回定例会が終わりました。今議会は令和6年度予算を審議する予算特別委員会も開催されました。

足立区の新年度の一般会計予算は、3300億円と10年連続で過去最高を更新しました。令和5年度当初予算で240億円取崩し、令和5年度末には1519億円まで減るとしていた積立基金は、わずか13億円減の1805億円と全国トップクラスを維持し続け、さらに増える見通しであることを区も認めました。

日本共産党はお金の使い方を変えれば物価高騰から区民の暮らしを守ることは十分可能と予算修正案を提案。45万人の区民、事業者の切実な要望を応援することができるものです。財源を示し施策の提案をしているのは、7つの会派の中で日本共産党だけです。自民・公明は毎年わが党の予算修正案に「中長期的な財政運営を考慮したものでない」と反対し否決してきましたが、「学校給食の無償化」「介護保険負担軽減」など過去の修正項目の多くが実現しています。まさに時代の先を行くのが日本共産党の提案です。

また、日本共産党は今議会で「奨学金返済支援をすでに返済している社会人にも適用する」と「廃止された生きがい奨励金を復活する」2本の条例提案を議案提案権を使いおこないましたが、自民・公明・維新等の反対で否決されました。否決は区民の声を軽視し、また全く道理のないものです。日本共産党は引き続き区民の切実な声を届け、頑張ります。



区民の声と日本共産党の論戦で前進

高齢者配食サービス補助

高齢者の配食サービスの補助がついに実現。1食当たり300円の補助で、開始予定は10月です。1年前にケアマネージャーや配食サービス利用者の声をもとに、日本共産党は繰り返し求め、予算修正案も提案してきました。利用者からは「物価高騰で値段が上がっていて大変だった。本当に助かる」と声が寄せられています。



学校図書館

数年前「学校図書館を考える会」の方々と懇談したことをきっかけに、学校図書館を充実する署名がひろがり、共産党は「本に親しむことで力がつく」と先進事例を提案。毎回のよう議会で論戦を行い、大きく前進しました。

【小学校図書館支援員】
週2日→週4日（1日6時間）配置の学校が
23校→45校（R7年度は67校に）



※【小中学校図書館】
小規模校の図書購入予算を増やして欲しいとの要望が実現。小規模な小学校28校、中学校15校に予算を加算
●学校図書館スーパーバイザーの増員。巡回司書も採用し、司書や司書教諭の地区別の研修や交流を充実
●利活用推進校（小学校9校・中学校2校）の蔵書や机・椅子等を更新し環境を整えながら、学校図書館を活用した学習を進め、好事例を他校に展開。

介護保険利用料軽減



「23区で一番高い保険料。いざ利用する時の負担軽減制度は他区よりもお粗末」の実態の改善を毎年求め続けてきました。予算修正案でも繰り返し提案し求めてきましたが自民・公明などに反対されてきました。昨年の代表質問などで前向きな答弁があり、新年度ついに実現。通常10%の利用料負担が3%になります。

【対象者】住民税非課税世帯で年間収入・資産要件を満たした方（単身の場合：収入150万円以下、資産350万円以下）

【事前登録が必要】事前に申請し、利用者負担額軽減確認証の交付を受ける必要があります。

福祉タクシー券33000円から42000円に増



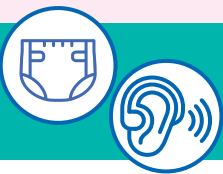
「障がい者の福祉タクシー券の金額が他区よりも少ない」と当事者から声が寄せられており、その声を届け、代表質問や予算修正提案を行ってきました。予算修正案は、自民・公明などが反対して否決されましたが、新年度予算で提案が実現しました。一方、練馬区などは精神障がい者にも支給していますが、足立区は対象外です。改善を求めています。

車いすでも楽しめる「インクルーシブ公園」実現！

日本共産党は、障がいのある・なしにかかわらず、誰もが楽しむことができる「インクルーシブ遊具」の設置を求め、区は「駐車場があり、利用者の多い公園等への設置を検討」「一つでも多くの公園にインクルーシブ遊具を設置していきたい」と答弁。保木間の総合スポーツセンター公園内に、「ハッピー広場」の名称で「背もたれのあるブランコ」「車いすでも楽しめる大型遊具」「触れて楽しむ遊具」などが誕生しました。



緊急通報システム・紙おむつ・補聴器



緊急通報システムは自公区政が有料化し、毎月900円、非課税・生活保護世帯は500円かかりましたが、昨年4月から無料に改善されました。しかし「利用したいのに『NTT固定電話のアナログ回線以外はダメ』と言われた」「時代に合わない」といった声が地域の方から寄せられ、区長に緊急申し入れを行い、9月の代表質問でとりあげ、今年4月から無線（携帯電話）の方も利用できるようになりました。



また、紙おむつ支給、補聴器購入補助の所得制限が撤廃されました。

第1回 | 定例会を終えて

予算分析を行い、足立区の財源の大きさと、制度はあっても区民に行き届かない課題を痛感。予算修正案としてまとめあげ提案しました。団長として全員の質問の下支えをしましたが、みんなの成長をとてうれしく思います。



区議団長 めかが和子

代表質問、予算委員会と続き、質問の調査と準備に追われる中、家族の一員の19歳になる愛猫が天寿を全うしました。悲しみを乗り越え奮闘しました。猫好きとなるきっかけとなった子で楽しい思い出も一杯くれました。



幹事長 はたの昭彦

他の障がい者と同様に精神障がい者にも福祉タクシー券を！と予算特別委員会でも論戦し、「職場のパワハラで精神障がいを患った息子さん」のお父様から感謝のメールが届きました。もっとパワフル・カラフルに住民の声を議会に生かす決意です。



副幹事長 山中ちえ子

物価高騰の中、生活が厳しさを増しています。介護保険料の値下げを強く求め実現！また、政府の介護保険制度改悪は許さない、特に訪問介護の報酬マイナス改定について地方自治体から声を上げよと求めました。ひきつづきががんばります。



区議会議員 横田ゆう

初めての予算特別委員会は、普段の委員会とは違い様々な部署と1問1答形式でやりとりする緊張感のある経験をしました。災害対策、再開発問題など、引き続き改善を求めています。



区議会議員 小林ともよ

地域交通が果たす役割を再認識しました。地域住民が「はるかぜ存続の署名」を次々集め、「はるかぜを守りたい、自分たちの移動する権利を保障して！」と行動しています。共に力を合わせ、声を上げていきます。



区議会議員 西の原ゆま